

警告

オオサンショウウオ、カエルツボカビ症
の検査を行わず、感染する危険性の
高い、保護池飼育をただちに止めろ!

小山公久

1998年 カエルツボカビ症が発見されて、大量死
が発生し、両生類絶滅の恐れがあるにも、
かかわらず、これまで、検査も行なってきた。
その責任は重大であり、

川上ダム オオサンショウウオ調査・保全検討委員会 及び
川上ダム 自然環境保全委員会 を告発し、責任を
問う。

昨年 12月に 両委員会と管理者に 検査の必要性を
質問して、
うたえたが、それも無視して、今日まで 検査も
行ってないし、対策の協議を開こうともしなかった。

「2007年6月以前も以後も 前深瀬川流域で
ツボカビ症と思われる両生類は確認されて
おりません。」と答えているが、

見たが4匹は、わかりにくく、検査せずして、誰
か平成8年 捕獲以後、判定確認したと言うのだ。
うそを言うのは止めて下さい。

「専門家から検査の必要はないとの意見をいただきました」という、専門家の名前を明らかにして下さい。

2月12日 豊岡河川国道事務所は、兵庫県出石川工事のため、一時的に保護して飼育している6匹のうち5匹が、カエルツボカビ症に感染していた事を発表した。

これは、重大な事で、隔離している保護池内での感染のうたがひがある。

カエルを含めて、ツボカビ症の検査を常に行い監視体制を、地元研究者とともに行う必要がある。私も協力をおしめない。一致団結して、保全してゆこうではありませんか。

回答をお願い致します。

何千年間も、種を保ち続けてき、森や河と共に生きのびて来た、河の王様、国の天然記念物、オオサニシヨウウオを虐待するのは、ただちに中止して下さい。

ダム予定地から2kmの位置にある大村神社は、このオオサニシヨウウオをオオナマズと呼んで要石を祭っていた神社の可能性が大であり、隣りの名居神社とともに日本ではめずらしい有数の地震の神社である。

参考に、私の書いた新聞記事も次に載せます。



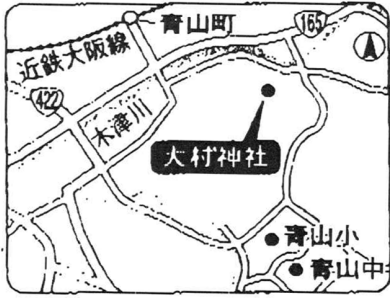
▶ 10

伊賀市阿保の大村神社前を流れる木津川を石打川とも言う。

なぜ、石打川と呼ばれたのだろうか。明治45年(1912年)、三重県名賀郡役所発行の「名賀郡郷土資料」、大正9年(1920年)発行の「名賀郡史」の大村神社の項に、「川干し石打して魚を取って神前に供える。ウナギ、ナマズ等の鱗のない魚は供えてはいけない、祭礼議員しか魚取を許さない極めて厳格なり」と記されている。

石を打ち、驚いて失神して浮かんできたアユなどを取る「石打漁」を行ってきた事によると考えられ、今も11月3日の祭礼には、祭礼講の皆さんがアユなど川魚を供えてい

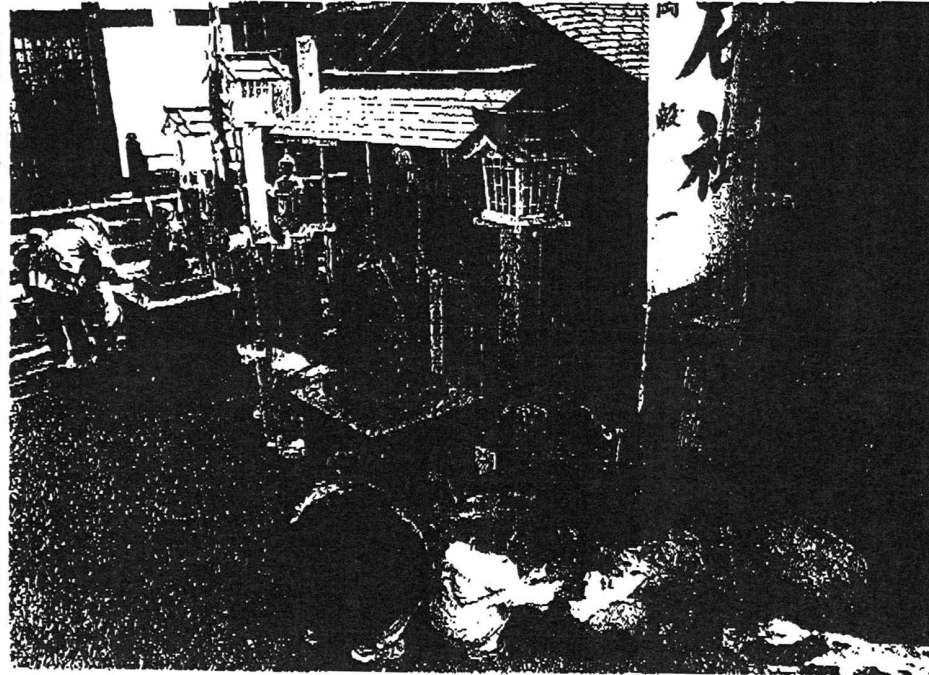
る。献饌魚を獲る川でもある。石打川と呼ばれた川は伊賀に数か所あったようだが、奈良側の旧月ヶ瀬村に石打、石打川の名を残している。大村神社は本居宣長の「菅笠日記」では、阿保の大森明神と記されており、大森の杜として崇拝されていた。南側地域は伊勢神宮領、六箇山として、山や川の産物の



大村神社は本居宣長の「菅笠日記」では、阿保の大森明神と記されており、大森の杜として崇拝されていた。南側地域は伊勢神宮領、六箇山として、山や川の産物の

石打川 神に供える魚住む

地震除災の神様「要石」が祭られる大村神社(伊賀市阿保)



賀、年魚、栗などを納めるため、山の森や川を大切に守り続けてきた聖地だった。主祭神大村神、息遠別命

とともに祭られている、武蔵祖命たち春日の神様は、神護景雲元年(767年)に鹿島神宮から、奈良の春日

大社に遷幸される途中、この地に寄せられ、合祀したとされる。その時に、地中で暴れて地震を起こす、大蛇を押さえる要石を祭り、関西の地震を治めるとされた。関東では鹿島、香取神宮の要石、関西では大村神社の要石として知られている。

地震の神、大蛇にアユなどを供えたものとも考えられる。南部山間を流れる前深瀬川、川上川には700匹以上のオオサンショウウオが確認されている。私は世界最大の両生類であり、川の生き物の王様であるオオサンショウウオを古代の人は大蛇として畏れ、奉ってきたのではないかと考える。

地域の宝として大切に守り続けていきたいと思っている。(伊賀の國地名研究会・小山公久)